

くっすり眠れていますか? 「幸せになれる部屋」を研究

ISSUE 249

MARCH 2018

03

780 YEN

GINZA
TOKYO
JAPAN

GINZA

THE INTERIOR ISSUE

クリエイターが愛する部屋

～総勢50名のインテリア大公開!～

news! THE NORTH FACE × HYKE



01



Tsé & Tsé associées

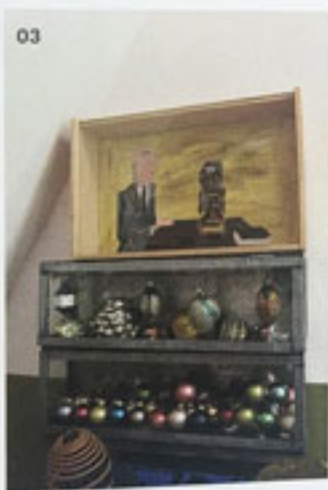
カトリーヌ・レヴィとシゴレーヌ・プレボフの2人が1984年にパリの国立工芸学院で出会い、制作活動を開始。卒業後の92年に〈ツェツェ・アソシエ〉を設立。デビュー作「四月の花器」はパリのボンビドゥセンターの永久定着コレクション。

Designer

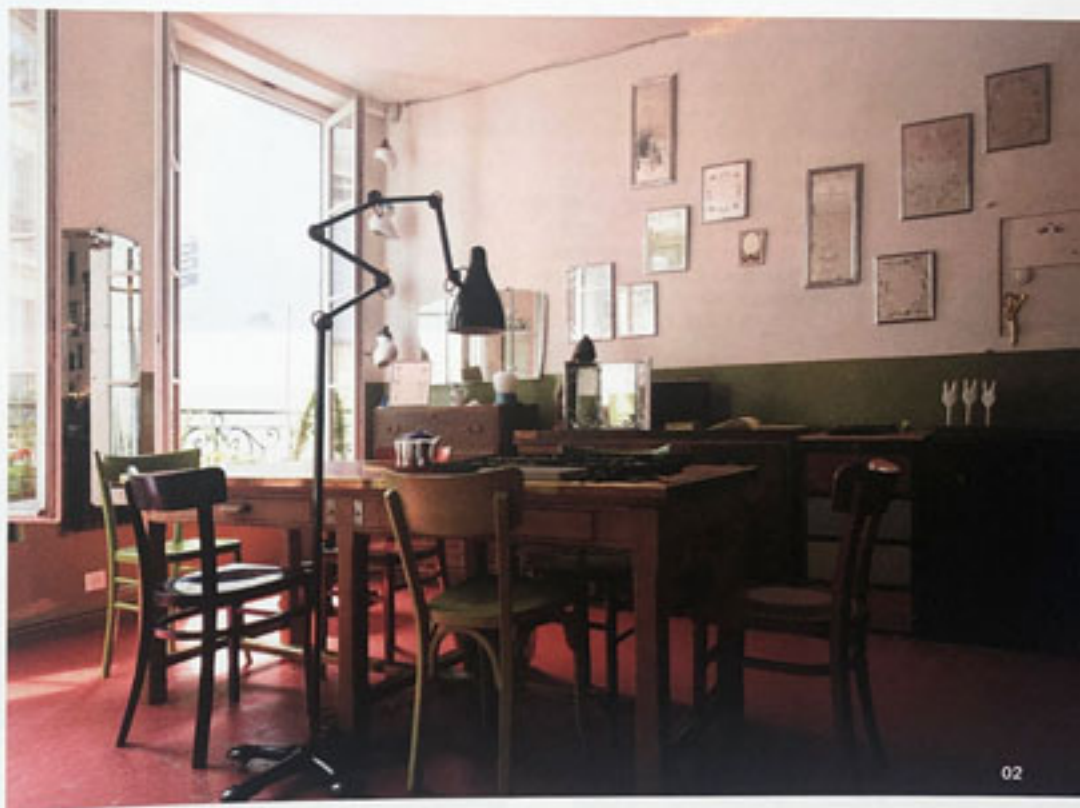
カトリーヌ・レヴィ



04



03



02

01「手仕事の工房がとんとん閉鎖されている今、フランスでものづくりをすることが大切」と話すカトリーヌさん。02: 薄緑の白とシックなグリーンのツートンカラーが印象的な壁と話すカトリーヌさん。03: 薄緑の白とシックなグリーンのツートンカラーが印象的な壁と話すカトリーヌさん。04: 手仕事の工房がとんとん閉鎖されている今、フランスでものづくりをすることが大切」と話すカトリーヌさん。05: 壁に取り付けた古材の棚にくるりと飾るのはドイツで見つけたクリスマスツリー用のキャンドル型クリップライト。その自由な発想とセンスに脱帽。06: アトリエの入り口に取り付けた照明はインドでひと目惚れしたメガネ屋さんのランプ。視力検査の文字がヒンドゥー語やウルドゥー語で4面それぞれに描かれている。

創作の源は好きな色と愛するものに囲まれた時間

パリのマレ地区にある趣ある建物。その一角にツェツェの活動とは別にカトリーヌさんが手がけるジュエリーブランド〈ドレット〉のアトリエがある。石膏の壁は下半分を、ホウレンソウのスープの緑にペイント。床は「ボビーの赤」。どちらも大好きな色だという。壁面にはインドで出会って感動した装飾的なミラーをまるで飾るようにつまみかける。「どれも今はもう作られていないもの。手仕事を感ぜさせるものや、デコラティブなものを感じさせるものや、イキキします」。古いキャビネットの上にはツェツェの代表作のひとつ「四月の花器」に準じたバラの花。キャンドル型のランプやビョウタンみたいなランプなど、照明もまるでアートのよう存在そのものを愛する。「インテリアはほとんどが友人にももらったものや無償から運来したもので、それぞれに物語があります。好きな色、愛するものに囲まれて過ごす時間こそがインスピレーションの源です」。



06



05